

④回答状況

- ADLに関する各設問に対する回答を認定の有無別にみると、自立の割合の差が大きいのは、階段昇降、歩行、入浴、排尿、排便など、比較的差が小さいのはトイレ動作、食事、整容、ベッドへの移動になっている。
- 比較的軽度の要支援認定者について自立の割合をみると、階段昇降(37.8%)、排尿(54.9%)、歩行(55.1%)などで低くなっており、高齢者ではこうした動作から機能低下が始まっていることがうかがえる。

図表 回答結果

単位: %

設問(自立と評価できる回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		差
	一般 (n=15,580)	二次予防 (n=9,169)	要支援 (n=2,082)	要介護 (n=2,299)	
問6-6 食事は自分で食べられますか (できる)	98.9		78.0		20.9
	99.8	97.5	92.2	65.1	
問6-7 寝床に入るとき、何らかの介助を受けますか (受けない)	98.8		73.3		25.5
	99.8	97.2	91.3	57.0	
問6-8 座っていることができますか (できる)	93.0		66.3		26.7
	97.0	86.2	70.9	62.2	
問6-9 自分で洗面や歯磨きができますか (できる)	99.2		76.5		22.7
	99.9	98.0	94.5	60.0	
問6-10 自分でトイレができますか (できる)	99.4		79.5		19.9
	99.9	98.3	96.5	63.9	
問6-11 自分で入浴ができますか (できる)	98.3		49.0		49.3
	99.8	95.7	72.2	27.9	
問6-12 50m以上歩けますか (できる)	94.7		42.3		52.4
	99.2	86.9	55.1	30.8	
問6-13 階段を昇り降りできますか (できる)	92.0		28.1		64.0
	98.7	80.7	37.8	19.4	
問6-14 自分で着替えができますか (できる)	98.9		69.4		29.5
	99.9	97.1	90.7	50.2	
問6-15 大便の失敗がありますか (ない)	94.8		55.4		39.4
	98.4	88.7	71.9	40.1	
問6-16 小便の失敗がありますか (ない)	88.0		42.2		45.8
	94.9	76.3	54.9	30.2	

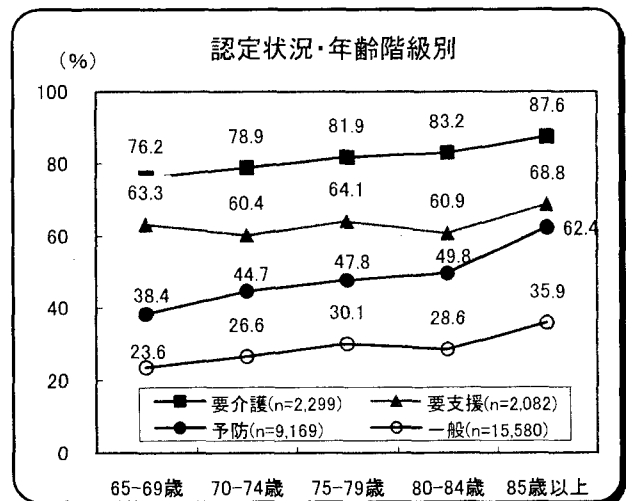
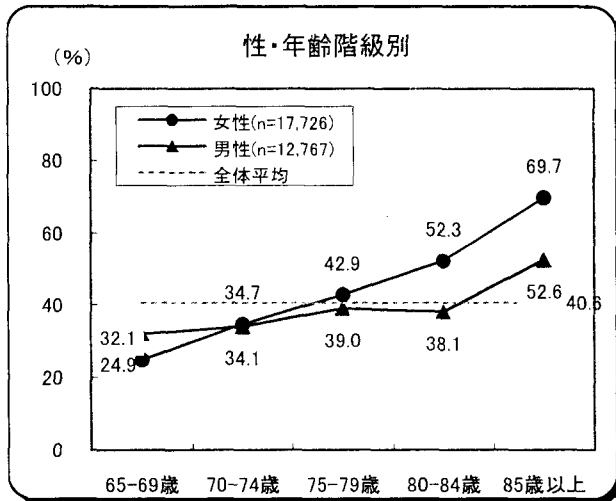
3 社会参加

(1) 知的能動性

① 評価結果

- 老研式活動能力指標には、高齢者の知的活動に関する設問が4問設けられ、「知的能動性」として尺度化されている（問7-1～4）。
- 評価は、各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点の4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価している。
- 3点以下を低下者とした評価結果をみると、60歳代までは男性のほうが低下者割合が高くなっているものの、70歳以上では逆に女性のほうが高くなっている。
- 認定状況別にみると、やはり最も低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

図表 低下者割合（性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別）



② 回答状況

- 評価の基礎となっている4項目についてそれぞれの回答結果をみてみると、一般高齢者、二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者でその回答結果に顕著な差がみられる。
- 非認定者のカウント率は71.7%～89.1%、非認定者のカウント率は32.0%～57.2%で、これらの設問が高齢者の生活機能レベルの指標として有効なことがうかがえる。

図表 回答結果

単位: %

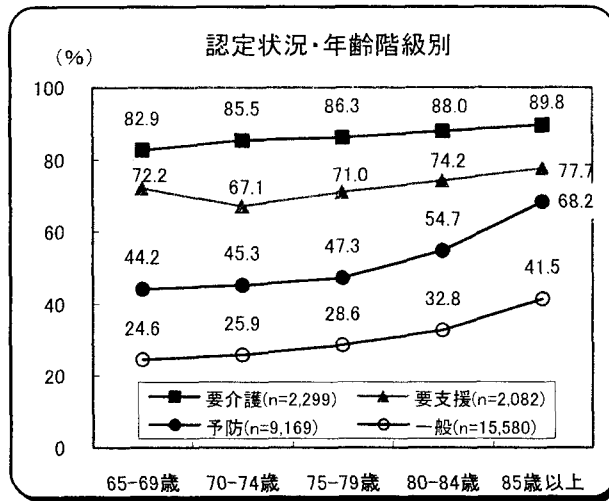
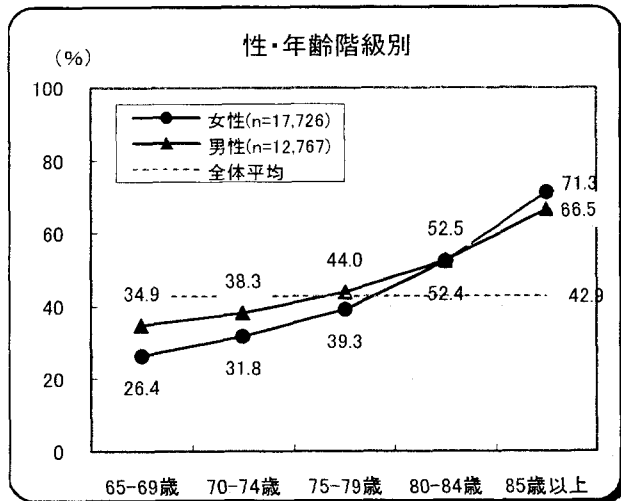
設問(得点カウントする回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		差
	一般 (n=15,580)	二次予防 (n=9,169)	要支援 (n=2,082)	要介護 (n=2,299)	
問7-1 年金などの書類が書けますか (はい)	85.3		32.0		53.3
	92.4	73.1	50.5	15.4	
問7-2 新聞を読んでいますか (はい)	86.2		51.4		34.9
	90.9	78.3	66.0	38.1	
問7-3 本や雑誌を読んでいますか (はい)	71.7		35.3		36.4
	78.9	59.4	47.3	24.5	
問7-4 健康についての記事や番組に関心がありますか (はい)	89.1		57.2		31.9
	91.7	84.8	77.7	38.7	

(2) 社会的役割

① 評価結果

- 老研式活動能力指標には、高齢者の社会活動に関する設問が4問設けられ、「社会的役割」として尺度化されている（問7-7～10）。
- 評価は、知的能動性と同様に4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価している。
- 3点以下を低下者とした評価結果をみると、総じて男性のほうが低下者割合が高くなっている。
- 認定状況別にみると、やはり最も低下者割合が最も高いのは要介護認定者で、次いで要支援認定者、二次予防対象者、一般高齢者の順となっている。

図表 低下者割合(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)



② 回答状況

- 評価の基礎となっている4項目の回答結果をみてみると、知的能動性と同様、一般高齢者、二次予防対象者、要支援認定者、要介護認定者でその回答結果に顕著な差がみられる。
- 非認定者のカウント率は70.1%～92.0%、認定者のカウント率は20.1%～49.3%で、これらの設問も高齢者の生活機能レベルの指標として有効なことがうかがえる。

図表 回答結果

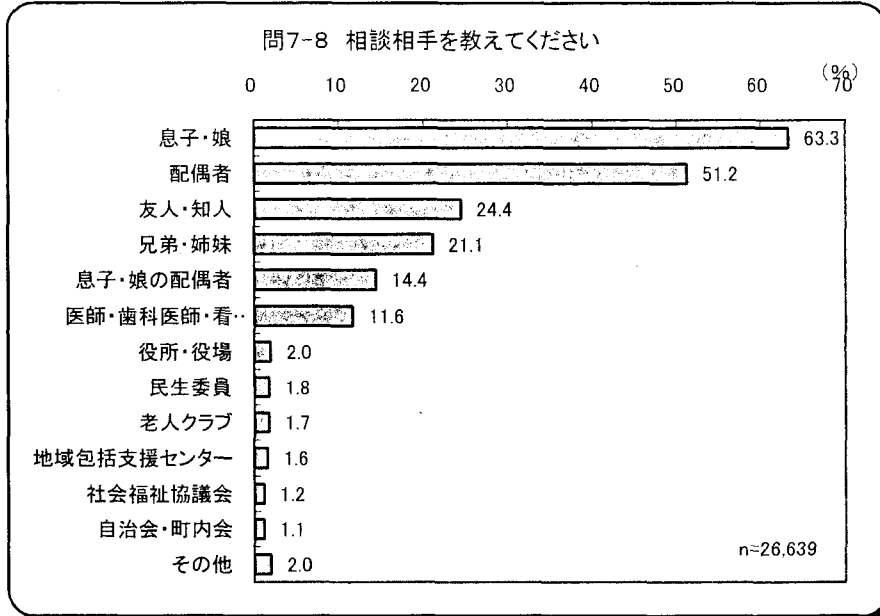
単位: %

設問(カウントする回答)	非認定者(n=24,749)		認定者(n=4,381)		差
	一般(n=15,580)	二次予防(n=9,169)	要支援(n=2,082)	要介護(n=2,299)	
問7-5 友人の家を訪ねていますか (はい)	70.1		20.1		50.0
問7-6 家族や友人の相談にのっていますか (はい)	77.9	56.7	30.8	10.4	48.7
	82.7		34.0		
問7-9 病人を見舞うことができますか (はい)	89.0	72.0	48.9	20.6	57.1
	92.0		34.9		
問7-10 若い人に自分から話しかけることがありますか (はい)	97.2	83.2	50.8	20.7	33.9
	83.2		49.3		
問7-10 若い人に自分から話しかけることがありますか (はい)	88.4	74.3	59.5	40.1	
問7-7 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談していますか (はい)	92.6		74.6		18.0
	94.3	89.6	86.7	63.4	
問7-11 ボランティア活動をしていますか (はい)	23.0		2.1		20.9
	28.1	14.3	3.2	1.1	

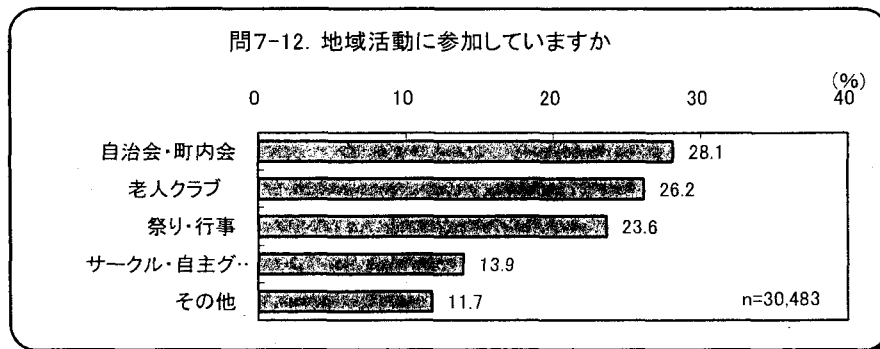
③相談相手・地域活動

- 高齢者の相談相手を、「問7-7 何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか」との設問に「はい」と回答した者についてみると、「息子・娘」(63.3%)が最も多く、次いで「配偶者」(51.2%)「知人・友人」(24.4%)、「兄弟・姉妹」(21.1%)の順となっている。
- 参加している地域活動としては、「自治会・町内会」(28.1%)、「老人クラブ」(26.2%)、「祭り・行事」(23.6%)への参加が多くなっている。

図表 相談相手



図表 参加している地域活動



V 健康・疾病

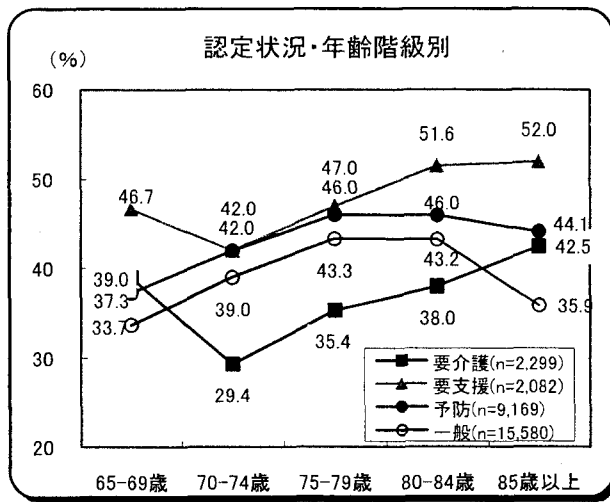
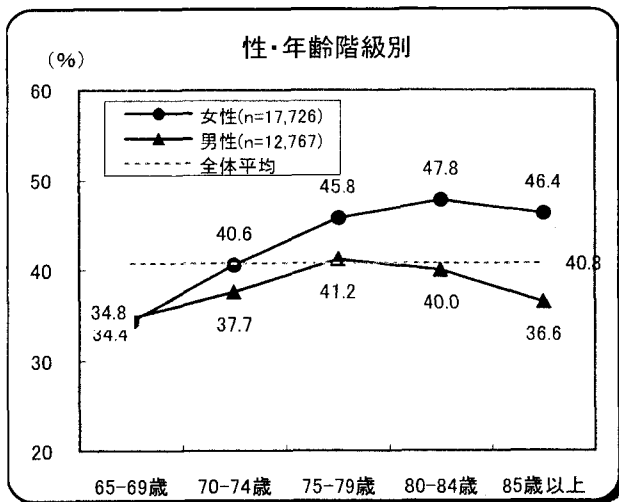
1 疾病

(1) 高血圧

○有病率

- 現在治療中とする病気で最も多いのは、「高血圧」（全体40.8%、男性38.0%、女性42.7%）で、男性より女性で、また年齢が高いほど多くなっている。
- 認定状況別にみると、調査への回答から求めた「高血圧」の有病率が最も高いのは、要支援認定者（49.6%）で、次いで二次予防対象者（43.6%）、要介護認定者（38.8%）、一般高齢者（38.6%）の順になっている。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

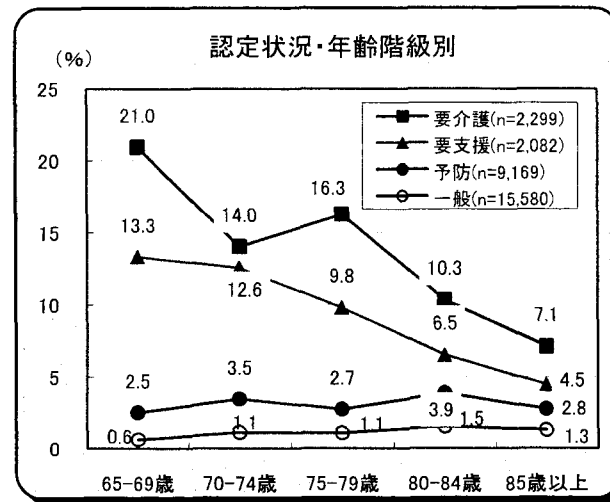
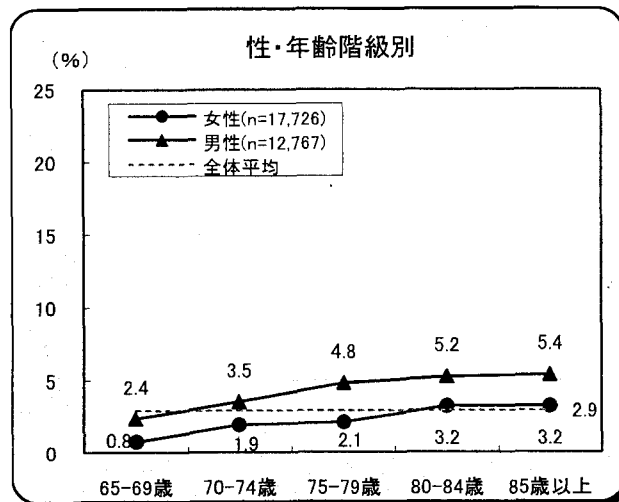


(2) 脳卒中

○有病率

- 要介護の主原因となる「脳卒中」について、現在治療中とする割合(有病率)は、全体で2.9%（男性4.0%、女性2.2%）となっており、女性より男性で、また年齢が高くなるほど多くなっている。
- 認定状況別にみると、有病率が最も高いのは要介護認定者（10.7%）、次いで要支援認定者（7.4%）、二次予防対象者（3.1%）、一般高齢者（1.0%）の順となっている。
- 非認定者では、年齢が上がっても有病率は横ばい傾向を示している一方、認定者では年齢とともに有病率が顕著に下がっている。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

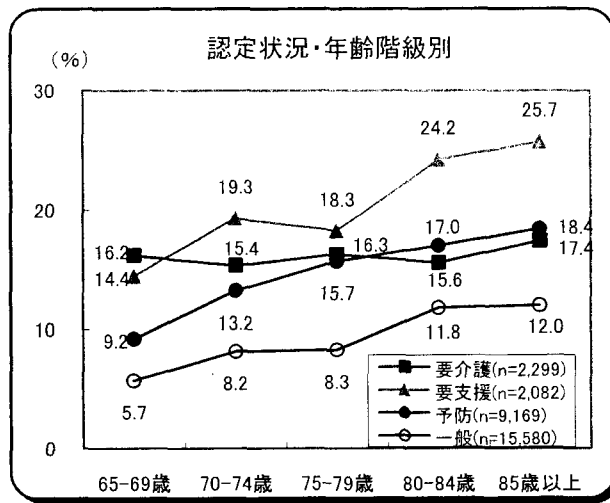
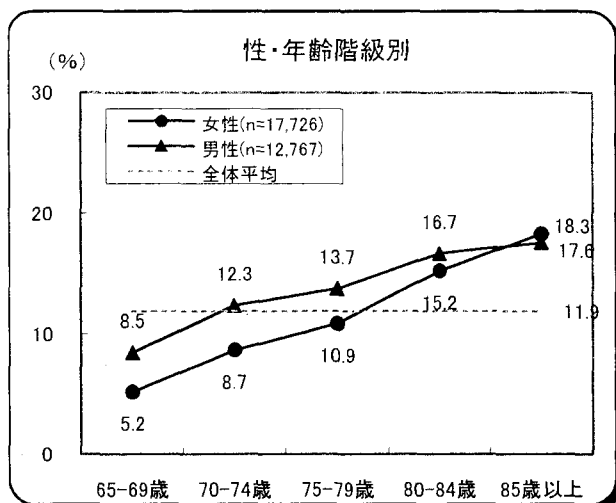


(3) 心臓病

○有病率

- 内蔵疾患で要介護の原因となる「心臓病」についてみると、有病率は全体で11.9%（男性12.9%女性11.1%）となっており、女性より男性で多くなっている。
- 認定状況別にみると、有病率が最も高いのは要支援認定者（22.5%）、次いで要介護認定者（16.5%）、二次予防対象者（14.9%）、一般高齢者（8.1%）の順となっている。これを年齢別にみると、全体としては年齢とともに有病率が高くなっているが、要介護認定者では年齢によって有病率にほとんど変化がみられない。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

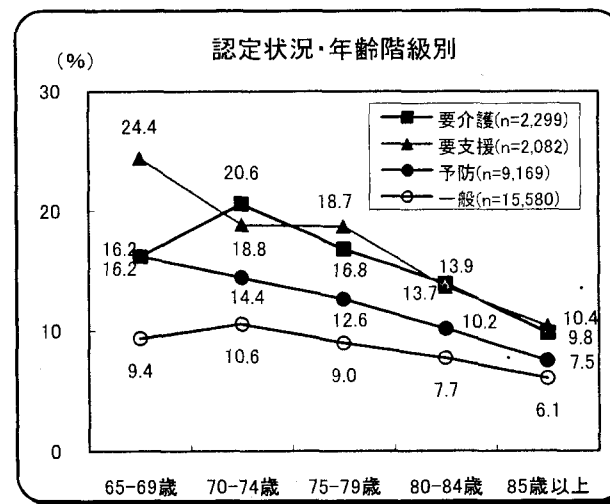
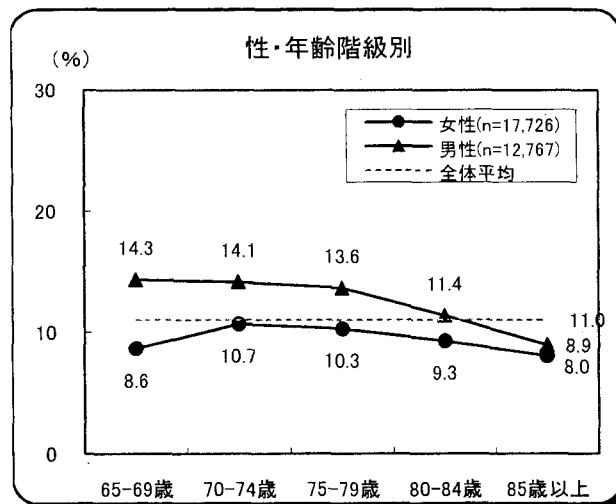


(4) 糖尿病

○有病率

- 同じく内蔵疾患で要介護の原因となる「糖尿病」についてみると、有病率は全体で11.0%（男性13.1%、女性9.5%）となっており、やはり女性より男性で多くなっている。年齢別にみると全体として年齢が高いほうが有病率は低くなる傾向がみられる。
- 認定状況別にみると、有病率が最も高いのは要支援認定者（14.6%）、次いで要介護認定者（13.4%）、二次予防対象者（12.2%）、一般高齢者（9.2%）の順となっている。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

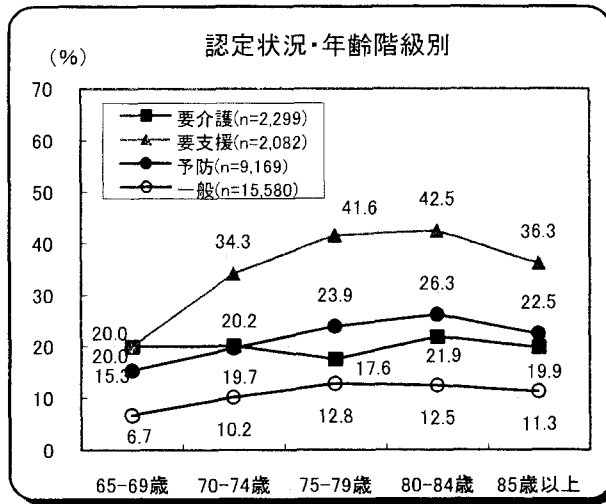
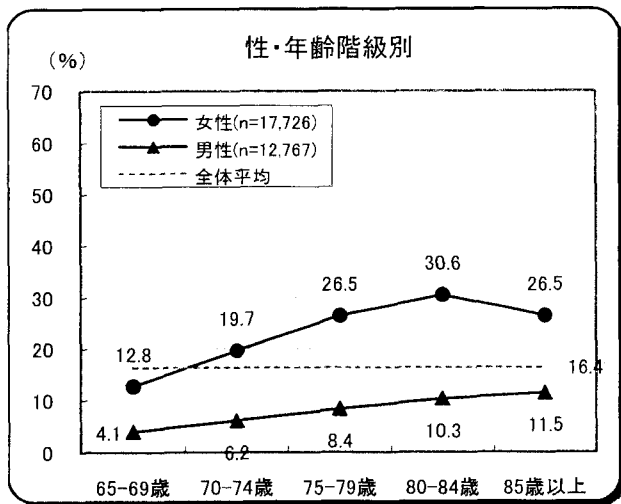


(5) 筋骨格系疾患

○有病率

- 要介護原因となる関節リュウマチを含む「筋骨格系」疾患の有病率をみると、全体では16.4%（男性7.3%、女性22.9%）となっており、男性より女性で、また年齢が上がるほど高くなっている。
- 認定状況別にみると、有病率が最も高いのは要支援認定者（38.5%）、次いで二次予防対象者（22.1%）、要介護認定者（20.0%）、一般高齢者（10.0%）の順となっている。これを年齢別にみると、全体としては年齢とともに有病率が高くなっているが、要介護認定者では年齢によって有病率にほとんど変化がみられない。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

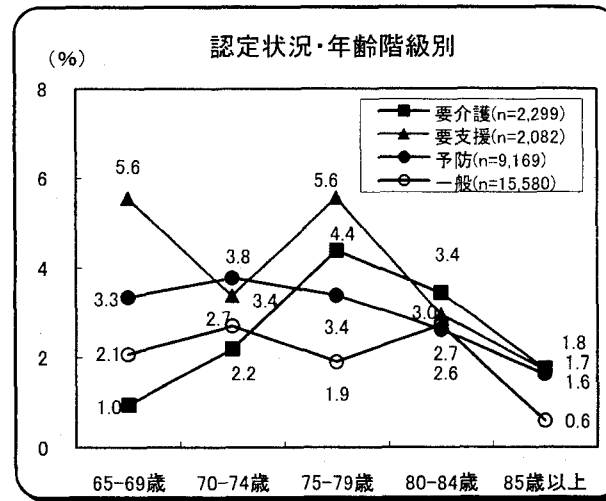
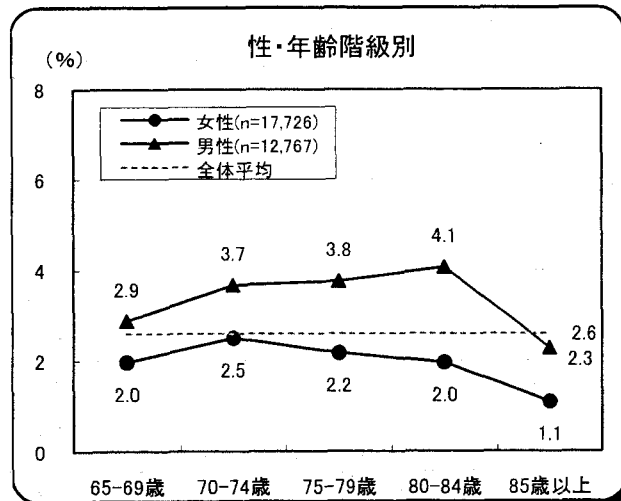


(6) がん

○有病率

- やはり要介護原因にもなる「がん（新生物）」の有病率をみると、全体で2.6%（男性3.4%、女性2.0%）となっており、女性より男性に多く、また70歳以上では年齢が上がるほど有病率が低くなっている。
- 認定状況別にみると、有病率が最も高いのは要支援認定者（3.3%）、次いで二次予防対象者（3.0%）、要介護認定者（2.6%）、一般高齢者（2.2%）の順となっている。

図表 有病率(性・年齢階級別、認定状況・年齢階級別)

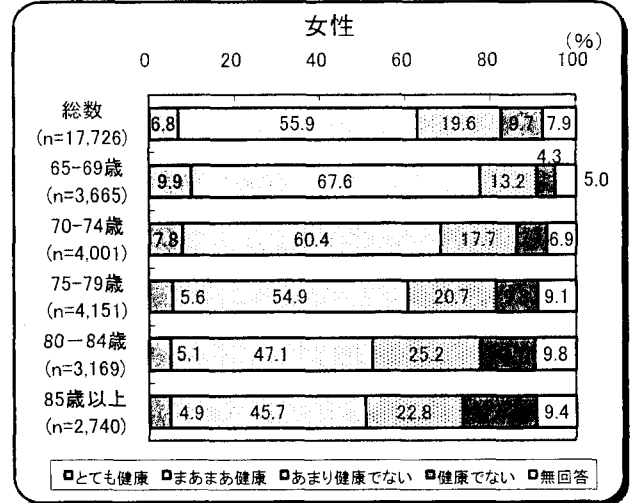
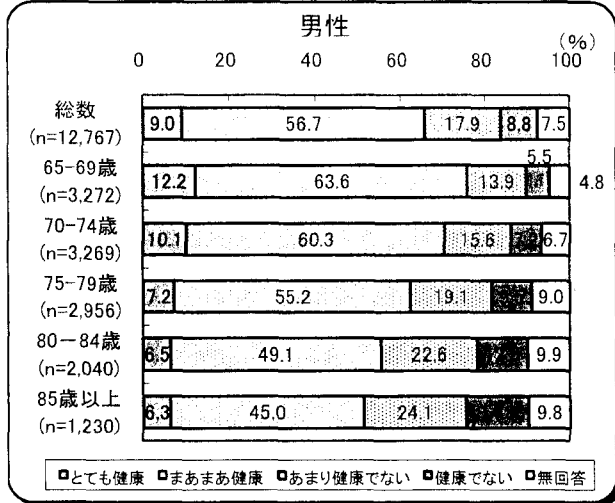


2 主観的健康感

①回答結果

- 高齢者のQOL（生活の質）の指標ともなっている主観的健康感に関する回答結果をみると、全体では「（まあまあ・とても）健康」とする肯定的な回答（健康群）が64.0%、「（あまり）健康でない」とする否定的回答（不健康群）が28.2%となっている。
- これを性別にみると、男性で「とても健康」とする回答が女性より2.2ポイント高くなっており、逆に「（あまり）健康でない」とする不健康群が2.6ポイント低くなっている。

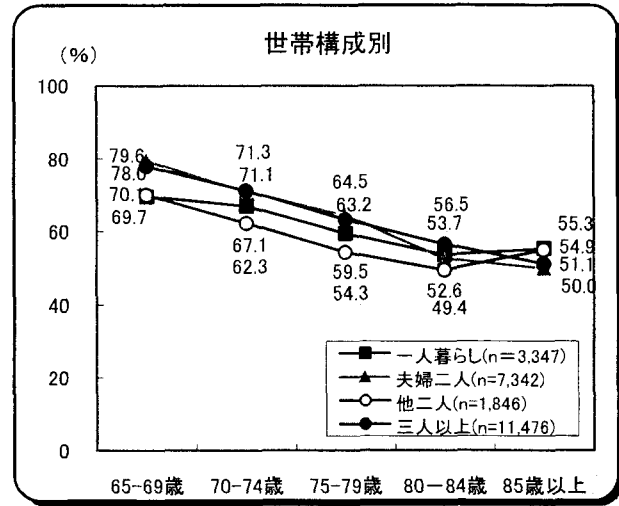
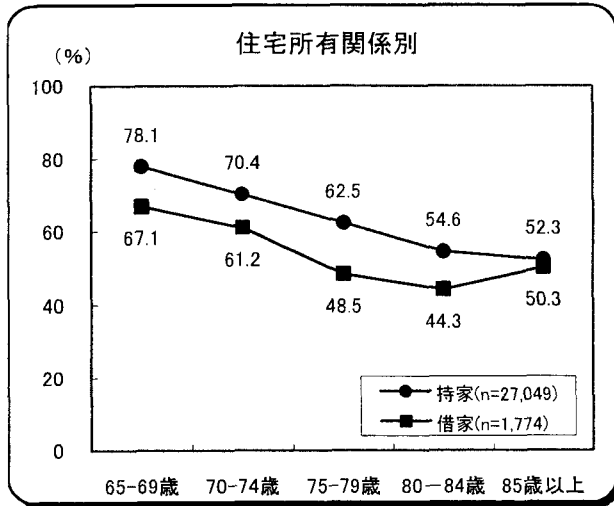
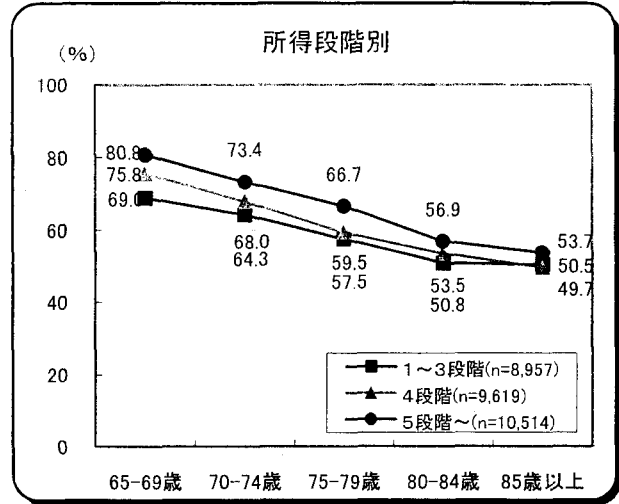
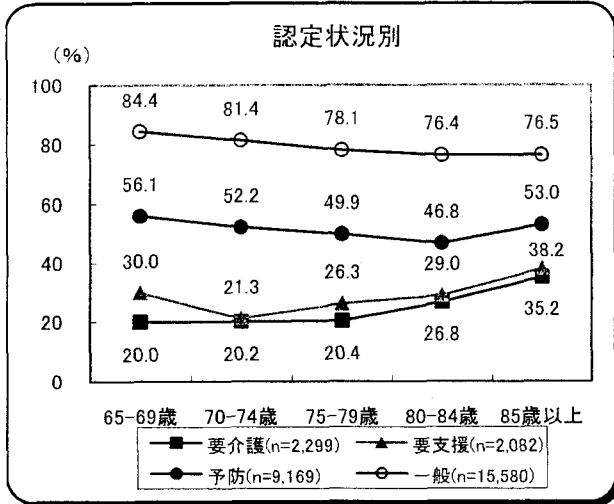
図表 回答結果(性・年齢階級別)



②属性別の状況

- 主観的健康感について肯定的な回答をした健康群の割合を認定状況別にみると、やはり一般高齢者が80.8%で最も高く、次いで二次予防対象者(51.1%)、要支援認定者(30.8%)、要介護認定者(28.5%)の順となっている。要介護認定者、要支援認定者でほとんど差がないことが特徴的といえる。
- 所得段階別では第5段階以上で、住宅の所有関係別では持家で、世帯構成別では夫婦二人暮らしや三人以上で同居の世帯で、それぞれ健康群の割合が高くなっている。

図表 健康群の割合(認定状況、所得段階、住宅所有関係、世帯構成別)



③関連設問への回答状況

●主観的健康感に関連する各設問に対する回答（肯定的な回答の割合）を、健康群と不健康群別にみると、両者で差が大きいのは、問8-9・11、問8-3などとなっており、抑うつ感や服薬状況が主観的健康感と関連していることがうかがえる。

表 関連設問への回答結果

単位：%

設問(肯定的な回答)	健康群(n=19,515)		不健康群(n=8,613)		差
	とても健康 (n=2,358)	まあまあ健康 (n=17,157)	あまり健康でない (n=5,766)	健康でない (n=2,847)	
問1-8 現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じますか (ややゆとりがある、ゆとりがある)	41.9		27.7		14.3
	52.0	40.6	29.3	24.4	
問1-9 現在、収入のある仕事をしていますか (はい)	21.2		7.7		13.6
	30.2	20.0	9.4	4.2	
問7-4 健康についての記事や番組に関心がありますか (はい)	88.9		75.3		13.6
	90.0	88.8	80.7	64.4	
問8-3 現在、何種類の薬を飲んでいますか (3種類以下)	75.3		37.1		38.3
	90.5	73.3	41.9	27.2	
問8-4 現在、病院・医院(診療所(クリニック))に通院していますか (いいえ)	24.6		6.9		17.7
	47.3	21.5	6.9	6.8	
問8-7 (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない (いいえ)	88.9		56.9		32.0
	92.6	88.3	64.8	40.1	
問8-8 (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくな った (いいえ)	92.5		60.3		32.2
	96.9	91.9	68.6	42.4	
問8-9 (ここ2週間)以前は楽にできていたことが、今ではおっく うに感じられる (いいえ)	81.1		39.7		41.4
	93.1	79.4	46.0	26.2	
問8-10 (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない (いいえ)	84.8		55.5		29.2
	89.8	84.1	62.7	40.3	
問8-11 (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする (いいえ)	80.1		39.2		40.9
	92.8	78.3	45.1	26.7	

VI 介護

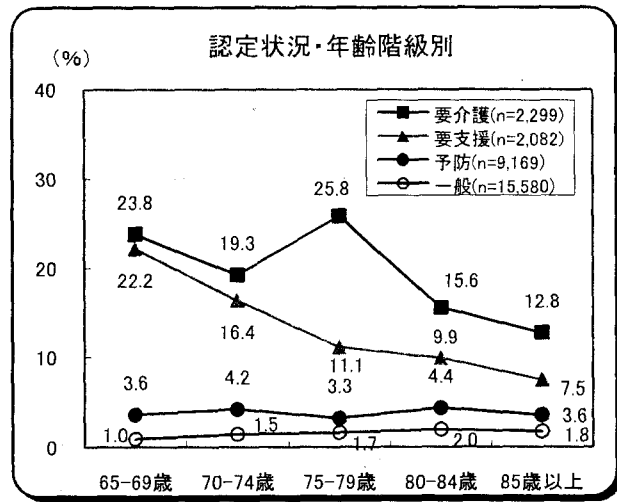
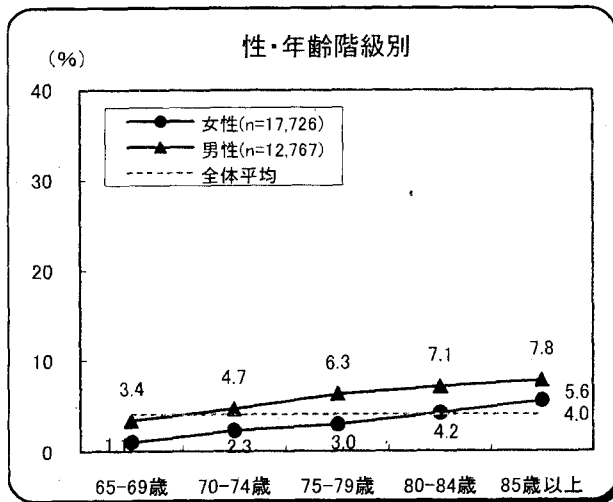
1 既往症

(1) 脳卒中

○既往率

- 要介護原因で最も多い「脳卒中」について、「これまでにかかった」とする回答の割合（既往率）をみると、全体で4.0%（男性5.4%、女性3.1%）と、やはり男性のほうが女性より、また年齢が上がるほど高くなっている。
- 認定状況別に見ると、既往率が最も高いのはやはり要介護認定者（16.8%）で、次いで要支援認定者（10.6%）、二次予防対象者（3.8%）、一般高齢者（1.4%）の順となっている。

図表 属性別既往率

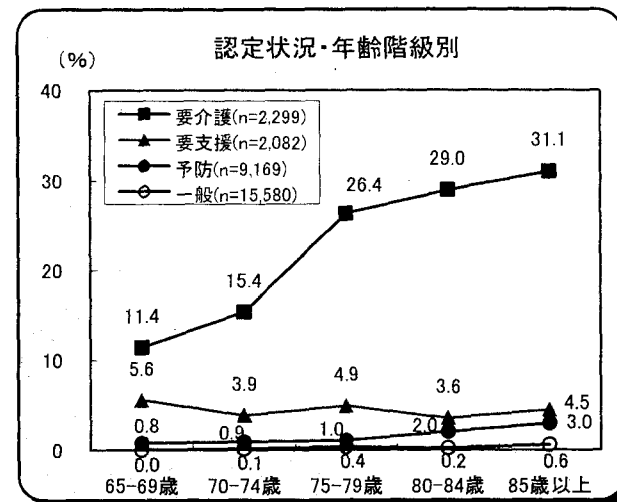
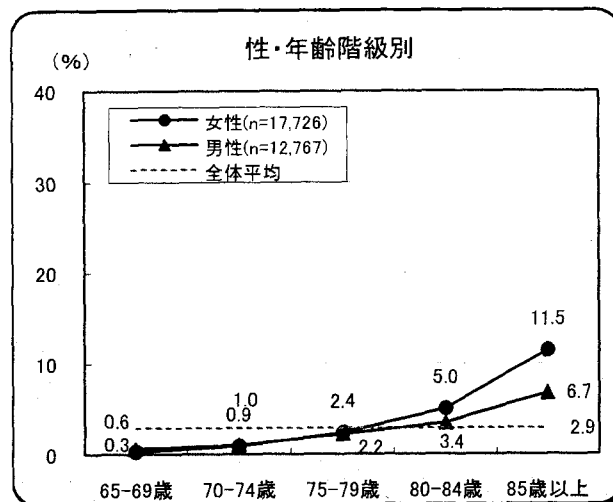


(2) 認知症

図表 既往率

- 同様に要介護原因の上位に位置する「認知症」の既往率をみると、全体で2.9%（男性2.1%、女性3.5%）と、男性より女性のほうが、また年齢が上がるほど既往率が高くなる傾向にある。
- 認定状況別に見ると、既往率が最も高いのはやはり要介護認定者（27.3%）で、次いで要支援認定者（4.3%）、二次予防対象者（1.4%）、一般高齢者（0.2%）の順となっている。
- 要介護認定者では、年齢が上がるに従って既往率が急激に高くなっており、年齢が上がるごとに認知症を要介護の原因とする認定者の割合が増えていることがわかる。

図表 属性別既往率

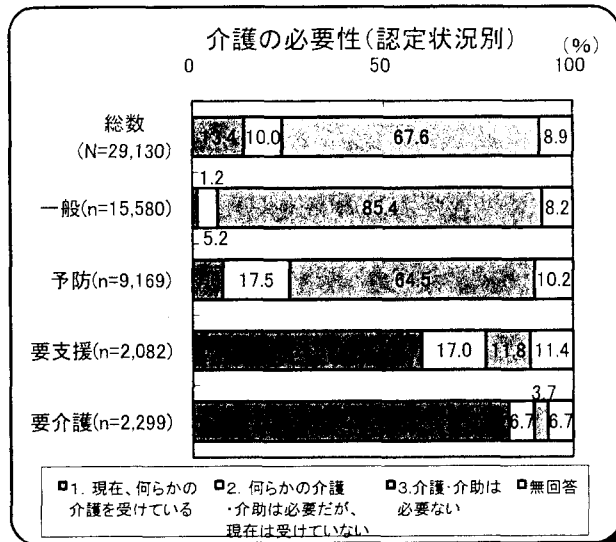
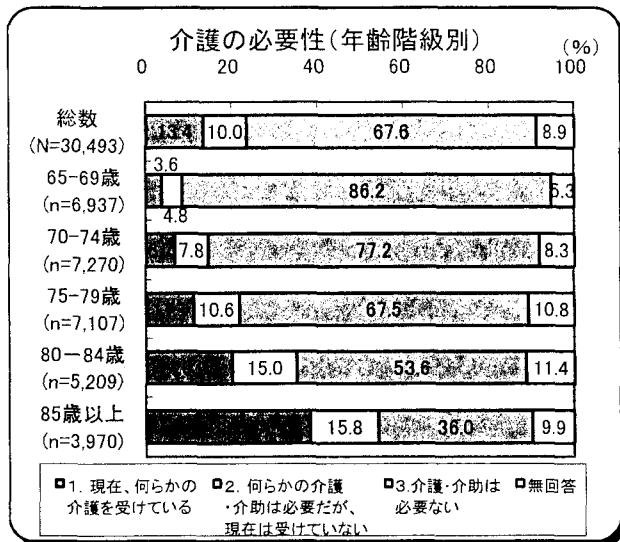


2 介護の状況

(1) 介護の必要性

- 介護の必要性に関する設問（問1-3）に対する回答をみると、年齢が上がるほど「介護を受けている」「必要だが現在は受けていない」の割合が高くなっていく。
- これを認定状況別にみると、要介護認定者の82.9%、要支援認定者の59.8%が「介護を受けている」と回答している一方、二次予防対象者では7.8%が「介護を受けている」、また17.5%が「必要だが現在は受けていない」と回答している。

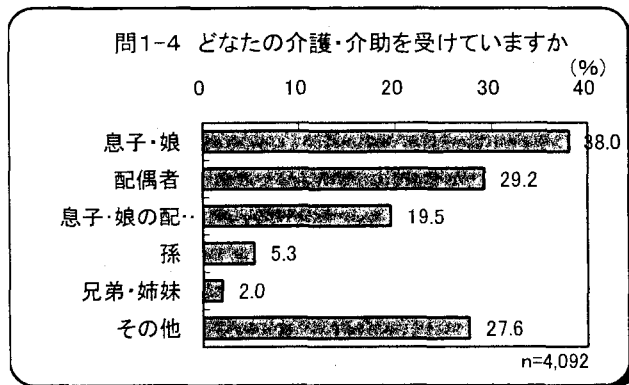
図表 介護の必要性



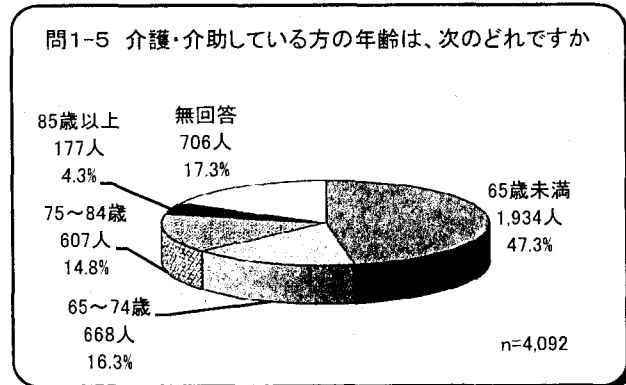
(2) 介護者

- 問1-3で「介護を受けている」と回答した者の介護者は、「息子・娘」(38.0%)、「配偶者」(29.2%)、「息子・娘の配偶者」(19.5%)が比較的多くなっている。
- 介護者の年齢は、半数近くの47.3%が「65歳未満」で最も多く、次いで「75~84歳」(14.8%)、「75~84歳」(14.8%)、「85歳以上」(4.3%)となっている。いわゆる老老介護が全体のほぼ1/3となっている。

図表 介護者



図表 介護者の年齢



(3) 利用している在宅サービス

●要介護認定者が利用している在宅サービスとしては、「訪問介護」が15.1%で最も多く、「訪問診療」(8.4%)「訪問リハビリテーション」(6.8%)、「訪問看護」(5.3%)、「訪問入浴介護」(4.9%)の順となっている。

図表 利用している在宅サービス

